

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月22日

【評価実施概要】

事業所番号	3070100296
法人名	社会福祉法人浩和会
事業所名	竹の里園グループホーム
所在地 (電話番号)	和歌山県和歌山市明王寺3-1 (電 話) 073-466-2233

評価機関名	社会福祉法人和歌山県社会福祉協議会
所在地	和歌山市手平2丁目1-2
訪問調査日	平成 19年 10月 5日

【情報提供票より】(18年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.4人	

(2) 建物概要

建物形態	☒ 併設 ☐ 単独	新築/改築
建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建て	1 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円) ☐ 無 ☒		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ☐ 無 ☒	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 円	昼食 円	
	夕食 円	おやつ 円	
	または1日当たり 円	月額	25,000円

(4) 利用者の概要(18年10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 歳	最低	79 歳	最高	85 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	竹の里園診療所、向陽病院、秋月歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム開設以来6年にわたり入居している利用者もあり、車椅子利用及び重度化している方も多く、その対応に職員は努力を重ねているが、笑顔を忘れずに接している。運営推進会議の開催を通じ、また地域における幼児とのイベントや夏祭の開催など、地域との交流に積極的である。季節の生け花を欠かさず共同室はゆったりした雰囲気である。職員の気付いたことを他の職員に伝える「気づき」カードを活用し、交代性の多い職場で利用者の情報の共有化を図っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価の要改善項目は、運営理念やホームの役割の地域への啓発は、運営推進会議において行われている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は職員が目を通し、管理者が意見を聞いて取りまとめている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議では、自己評価や外部評価への対応、利用者の事故の処理、地域交流、介護実習、利用者負担金、花苗植えなど多岐にわたり活発な意見が出され、それらをホームの運営に活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の意見、苦情等の申し出は、利用の初めに重要事項説明書で説明しており、運営推進会議の席上で話したり、また意見箱を設置しているが、今のところ苦情等は出されていない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームでのマジックショーに近所の子どもや母親が参加したり、幼稚園の年長組みとの交流行事を行っている。また法人が開催し地域の人々が集まる夏祭に、利用者も参加している。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「笑顔で暮らすやすらぎのある生活環境をつくります」という独自の理念を、職員全員でつくりあげている。	○	地域密着型サービスの役割を、理念に付け加えることが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員一人ひとりが、笑顔を見れば利用者が安心するという思いで接している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームで行うマジックショーに地域の子供や母親が参加したり、七夕つくり幼稚園年長組が訪問したりしている。また法人の夏祭に参加し地域住民と交流している。利用者の重度化により、ホームの外で地域活動に参加することは困難な状況にある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は職員が評価票に目を通して意見を述べ、管理者が取りまとめた。前回の外部評価については、職員が改善点を話し合い、また運営理念やホームの役割の地域への啓発については、運営推進会議において行われている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は平成19年4月から発足し、その後定期的に開催し、運営状況を報告して出席者から活発な意見を出してもらっている。議題は自己評価・外部評価への取り組み、事故についての報告、地域交流、介護実習、利用者負担金等多岐にわたり、その内容を職員に伝えてサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者は必要に応じて市役所に出向くが、具体的なサービスの向上の取り組みはしていない。	○	運営上の疑義があれば市町村に尋ねる等、市との連携を密にしサービスの向上に努められるよう期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態については、面会時及び電話で報告している。また預かり金については、3か月ごとに通帳のコピーを送り、面会時に確認してもらっている。また小口現金についても収支簿や領収書で確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族の意見などを聞いたり、ホーム内に苦情箱を設置している。また苦情があれば国保連合会等外部へも申し出ることができる旨法人の玄関に掲げている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者へのダメージを防ぐため、異動や離職をできるだけ少なくするようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は毎年認知症介護実践者研修や実践リーダー研修・ケアマネジャー研修に参加するようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡会に参加し、職員が交代で勉強会に出席し、研修後、報告会を開催している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居後、利用者が慣れるまでは、家族との連絡を密にし、必要に応じて来訪してもらっている。家族に連れてこられたと怒る人もいるが、徐々にホームを自分の居場所と思ってもらえるように見守っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を介護される一方の立場のおかず、生活の中で職員は利用者に教えられることもある。また利用者から苦勞をねぎらわれ、ほっとすることもあり共に支えあう関係がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人の希望を把握することが難しいので、家族から意向を聞きながら本人の思いに近づくように心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の希望を聞き、その人らしさを活かせる暮らしを求めて、職員が話し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	心身の変化が著しい場合は、職員と家族が話し合い、新たな計画を作成している。また一定期間毎に職員間で話し合い見直ししている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとっており、併設の診療所の医師や特養の看護師とすぐに連絡がとれるようになっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望を聞き、従来のかかりつけ医やホームの嘱託医に適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期にどうするかについて、家族や職員が話し合いを行って決めている。現在併設診療所の開所は週3回であるが、病状に急変があれば医師に回診を依頼している。また看護師とは24時間連絡可能な体制をとっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの利用者の誇りや人格を傷つけるような言葉かけや対応のないよう努めている。記録等個人情報の取り扱いも適切である。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	重度化に伴い希望の把握が困難となる場合もあるが、職員の決まりを優先せず利用一人ひとりのペースや希望に沿って支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しくなるような嗜好を活かし、土地の果物も使った料理を作っている。重度化に伴い、食事の準備や後片づけの手伝いのできる人が少なくなっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望を表明できない人や機械浴で対応している人もいるが、希望を聞いて毎日入浴できる体制をとっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの利用者の経験と、現在もっている能力を活かし、洗濯もののたたみや食事の前準備、プランターの花の水やりなどをしてもらっている。またテレビを見ている人もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	重度化した人もあり、外出は体力的に困難になってきており、気候のよい時期には、日当たりのよいホームの前で、外気浴をする人もいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	朝8時半頃から夕方7時頃まで鍵を掛けていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	法人合同の避難訓練に参加しており、消防署と地元消防組織と連携・交流をもち、緊急時に速やかな対応を依頼している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や栄養バランスをその都度考慮して食事を作っており、水分補給量も記録している。また心身の状況に応じて食事の介助をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間には季節の花を活けたり、行事の写真を飾ったりしてゆったりした広さである。また天井からの室内の明るさも、テレビの音量も適当と感じられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には好みの物を飾ったり写真を置いたりして、居心地よく過ごせるよう配慮されている。		